

第2学年 国語科

1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、小テスト、書写の作品など
思考・判断・表現	定期試験、小テスト、話す・聞く活動、作文など
主体的に学習に取り組む態度	作文、振り返りなど

3 授業について

- (1) 授業に必要なものは、教科書・ノート・ワーク・ファイルです。書写の学習の時は、書写の教科書と習字道具を使います。
- (2) チャイムが鳴ったらすぐに学習に取りかかれるように、休憩時間中に道具の準備をしておきましょう。
- (3) 積極的に自分の意見や考えを伝えたり、しっかりと他の人の意見や考えを聴いたりしましょう。
- (4) 予習は、ワークを活用して意味調べをしたり、漢字を練習したりしておきましょう。復習として、授業に沿ってワークの問題を解きましょう。

4 年間計画

月	単元	教材名	学習のねらい	関連する道徳の項目
4	1 広がる学びへ	「見えないだけ」(詩) 「アイスプラネット」(小説) 聞く：意見を聞き、整理して検討する。 季節のしおり 春 文法への扉1 単語をどう分ける？ 「枕草子」(古文) 魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする 漢字に親しもう1	・好きな言葉や表現を見つけ、選んだ気持ちやわかるように朗読する。 ・登場人物の言動や心情を表す表現に注意して読み、自分の考えをもつ。 ・聞き取った意見と根拠を整理し、根拠の適切さについて検討する。 ・春に関連する言葉や詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ・自立語の各品詞について確認する。 ・作者の四季に対するものの見方や感じ方に触れ、比較をしながら自分が感じる四季の趣を表現する。 ・論理的でわかりやすい構成を考え、資料や機器を活用して説明する。	A(1) C(17)
5	2 多様な視点から	「クマゼミ増加の原因を探る」(報告) 情報整理のレッスン 思考の視覚化 情報を整理して伝えよう 職業ガイドを作る 漢字1 熟語の構成 漢字に親しもう2	・文章の全体と部分の関係や、具体的事例の役割などに注意して、筆者の主張を読み取る。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し、視覚的に表す。 ・具体と抽象の概念を理解し、言葉の意味を説明する。 ・これまでの学習した漢字を用いながら熟語の構成について理解する。 ・新出漢字を確認し、練習問題に取り組む。	D(20)
6	3 合う言葉と向き	「短歌に親しむ」(短歌・解説) 「短歌を味わう」(短歌) 「言葉の力」(随筆) 語彙を豊かに 抽象的な概念を表す言葉 類義語・対義語・多義語 書写(毛筆)	・筆者のものの見方や言葉遣い、表現の仕方などを読み味わい、短歌の世界に親しむ。 ・それぞれの短歌に表現されている情景や作者の思いなどを想像する。 ・抽象的な概念を表す言葉を探し、語彙を増やす。 ・類義語・対義語・多義語について理解し、意味を考えながら語感の違いに気づく。 ・行書の特徴に気をつけ、字形を整えて書く。	C(17)
7	4 情報とメディア	メディアの特徴を生かして情報を集めよう デジタル市民として生きる	・メディアの特徴を理解し、適切な情報を得るためにはどのような方法で、何を確認すべきか、考える。 ・メディアから情報を受け取る際に意識することを伝え合う。	A(1)
8	5 そばつにも本を	読書を楽しむ(読書活動) 「翻訳作品を読み比べよう」(読書) 読書コラム「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう 季節のしおり 夏	・さまざまな読書活動があることを知り、見通しを立てて活動し感想を発表する。 ・多用な方法で選んだ本や文章から適切な情報を得て、自分の考えをまとめる。 ・翻訳作品を読み比べ、表現の違いによって作品の印象が変わることを知る。 ・これまでの読書生活を振り返り、より豊かにするためにできることを考える。 ・言葉や表現の豊かな広がりを読み味わう。	C(11) C(17) C(18)
9	4 人間のきずな	「ヒューマノイド」(小説) 「字のない葉書」(随筆) 言葉2 敬語 聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す 表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く 推敲：表現の効果を考える 漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3	・場面の展開に注意して人物の設定を捉え、登場人物の言動を解釈する。 ・言動や様子を描写した表現に着目して人物の心情や心情をとらえ、父親に対する筆者の思いを読み取り、自分の考えをもつ。 ・敬語の働きについて理解し、適切に使えるようになる。 ・自分の役割を理解し、話の要点や全体像を考えながらインタビューをする。 ・自分の思いや考えが伝わるように表現を工夫して手紙や電子メールにまとめる。 ・読み手の立場に立って文章を推敲し、表現を書き改める。 ・同じ訓・同じ音をもつ漢字について具体的な例を当てはめて理解する。	B(9) C(14)
10	5 えで論理を捉	「モアイは語る―地球の未来」(論説) 思考のレッスン1 根拠の吟味 適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く 聴きひたる 月夜の浜辺(詩) 季節のしおり 秋 書写(毛筆)	・役割を決めて目的に沿った討論をし、互いの発言を検討しながら自分の考えを広げる。 ・文章の中の根拠を把握し、説得力を吟味する。 ・立場と根拠を明確にし、構成を工夫した意見文を書く。書いた文章を推敲する。 ・詩の中の表現に着目し、詩全体の世界を豊かに想像しながら音読する。 ・楷書に調和する仮名の書き方や配列・配置に気をつけ、字形を整えて書く。	B(9) D(21)
11	6 心に訪ねる	音読を楽しむ 平家物語 「平家物語」の世界／平家物語の主な登場人物たち(古文・音読・資料) 「扇の的」『平家物語』から(古文) 「仁和寺にある法師」『徒然草』から(古文) 書く：人物の特徴をとらえて論じよう 「漢詩の風景」(漢詩・解説)	・平家物語の概要や文章の特徴、主要な登場人物について理解する。 ・漢語を交えた独特の調子とリズムがある文章の、言葉の響きを楽しむ。 ・調子やリズムに慣れるとともに、古典に描かれた物の見方や考え方に触れる。 ・登場人物の行動の描写に着目し、作者のものの考え方に触れる。 ・作品に登場する人物の特徴をとらえ、どんな人物かを論じる文章を書く。 ・漢詩特有の言葉遣いなどを生かして読み味わうとともに、情景を想像し心情に触れる。	C(17)
12	7 価値を知る	「君は「最後の晩餐」を知っているか」(評論) 「最後の晩餐」の新しい(解説) 思考のレッスン2 具体と抽象 立場を尊重して話し合う 討論で視野を広げる 漢字に親しもう4 文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 季節のしおり 冬 書写(毛筆)	・根拠となる事実を確かめて文章の構成や表現の仕方をとらえ、筆者の主張を読み取る。 ・二つの文章に書かれていることを比較し、文章が書かれた目的や意図を考える。 ・具体と抽象などの用語を理解し、具体と抽象の関係について理解する。 ・異なる立場の意見を想定して自分の考えをまとめる。 ・テーマを決め、互いの立場や考えを尊重しながら考えをまとめ、討論する。 ・用言の活用や助動詞について理解する。 ・全体の調和を考え、配列・配置に気をつけて、好きな言葉や文章を書く。	A(5) D(21)
	はいっぱい本	「自分らしさ」を認め合う社会へ 父と話せば／六千回のトライの先に(読書) 読書案内 本の世界を広げよう	・文章を通して考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。 ・冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ詩歌を味わう。	B(9) C(17)
1	8 表現を見つめる	「走れメロス」(小説) 書く：作品の魅力をもとめ、語り合おう 漢字に親しもう5 文法への扉3 一字違いで大違い 描写を工夫して書こう 言葉3 話し言葉と書き言葉 漢字3 送り仮名 国語の学びを振り返ろう 鍵(詩)	・描写や会話から人物像の変化を読み味わい、自分の意見を持つ。 ・心の動きが伝わるように、視点を定め、表現を工夫して書く。 ・付属語の働きと種類を確認し、今後の表現活動に生かす。 ・伝えたいことがわかりやすく伝わるように、表現の効果を考えながら描写し、文章を書く。 ・話し言葉と書き言葉それぞれの特徴を理解し、表現する際の注意点を考える。 ・送り仮名の主な原則と例外を知り、漢字を適切に読み分ける。 ・全体の調和を考え、配列・配置に気をつけて、好きな言葉や文章を書く。 ・抽象的な概念を表す言葉に着目し、作者のものの見方に触れ自分の考えを広げたり深めたりする。	A(3) B(8) C(22)

第2学年 社会科

1 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

2 評価について

評価の観点	評価の方法
知識・技能	定期試験、小テスト、課題など
思考・判断・表現	定期試験、レポート、課題など
主体的に学習に取り組む態度	振り返りシート、授業ノート、課題など

3 授業について

(1)地理の授業に必要な物は、教科書・地図帳・ノート(ファイル)・ワークの4点、歴史の授業に必要なものは教科書・ノート(ファイル)・ワーク・資料集の4点です。忘れ物をしないようにしましょう。

(2)日頃から新聞やニュースに親しみ、国内・国外の社会の動きを知り、関心を持つようにしましょう。

(3)定期試験は、授業でやったことが身についたかを調べるので、テスト勉強の時に復習に使えるようなノート(ファイル)にすることがとても大切です。①自分の考えをしっかりと書く、②板書をきちんと写す、③重要項目は色ペンで強調して書くなど、①～③を必ずやりましょう。ノート(ファイル)は定期的に提出してもらいます。

(4)新しく習った地名・用語は、自分でもう一度地図帳・教科書を開き、位置を確認し、その日の復習をしましょう。

(5)その日の授業で学習した基本語句は、正しく書けるように繰り返し練習しておきましょう。

4 年間計画

月	分野	単元・章・節	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4 5 6 7 9 10	地理的分野	第2章 日本の地域的特色と地域区分 第3章 日本の諸地域 1節 九州地方 2節 中国・四国地方 3節 近畿地方 4節 中部地方 5節 関東地方 6節 東北地方 第4章 地域の在り方	日本の諸地域の地域的特色について、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現する。日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付ける。竹島、北方領土、尖閣諸島の位置と、これらの島の領有をめぐる主張と現状を理解する。 日本の地域的特色とその課題について理解する。地域ごとの自然環境・人口・資源・交通網などの共通点と違いについて考え、相互に依存する様子を知る。また各地域の広がりや人々の暮らしについて知る。日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。	C(17)
11 12 1 2 3	歴史的分野	近世の日本 第4章 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 2節 江戸幕府の成立と対外政策 3節 産業の発達と幕府政治の動き 開国と近代日本の歩み 第5章 1節 欧米における近代化の進展 2節 欧米の進出と日本の開国 3節 明治維新	ヨーロッパ文化の伝来については、新航路の開拓を中心として、この時代のアジア交易の状況やムスリム商人の役割を理解し、世界の結びつきも気づく。織田・豊臣の時期の政策や社会の大きな変化と対外関係のあらまし等を理解する。交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 江戸幕府の成立と大名統制、身分制度の確立および農村の様子を理解する。鎖国下の貿易、朝鮮との交流や琉球の役割、アイヌの人々の生活と文化を学び、鎖国下の対外関係を理解する。 江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりや、新しい学問・思想の動きを理解する。江戸時代の文化の特色とそれを生みだした社会との関係を様々な角度で考察し、表現する。 アメリカの独立・フランス革命を学んで、欧米諸国が近代革命を経て近代国会を形成した過程を理解する。ヨーロッパのアジア侵略とそれに対するアジア諸国の動きを知る。 開国から江戸幕府の滅亡までの政治・経済の大きな変化を理解する。 明治維新のあらましを諸改革の内容を通して理解する。領土の確定については、北方領土について学び、竹島と尖閣諸島の編入について知る。自由民権運動から憲法制定までの時期を自由民権側と政府側の双方から考察し、表現する。	C(17)



第2学年 数学科

1. 目標

- (1) 文字を用いた式と連立二元一次方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

2. 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、確認テストなど
思考・判断・表現	定期試験、確認テスト、レポートなど
主体的に学習に取り組む態度	確認テスト、単元のふり返りや単元のまとめ、問題集など

3. 授業について

- (1) 授業に必要なものは、教科書、ノート、問題集、ファイル、定規、コンパス（図形するとき）です。
- (2) 宿題や課題は、期日を守ってしっかりと取り組みましょう。
- (3) 数学の力を上げるには、毎日の家庭学習が欠かせません。特に、復習に取り組むことが大切です。

4. 年間計画

月	学習内容	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4 5	式の計算 ①式の計算 ②式の利用	・同類項の意味を理解し、簡単な数式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ・具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。	
6 7	連立方程式 ①連立方程式 ②連立方程式の利用	・2元1次方程式や連立2元1次方程式の意味とその解の意味を理解する。 ・連立2元1次方程式を解くことができる。 ・連立2元1次方程式を具体的な場面で活用することができる。	
9	1次関数 ①1次関数 ②方程式と1次関数 ③1次関数の利用	・1次関数や、変化の割合やグラフの傾きの意味を理解する。 ・1次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 ・1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	
10 11	図形の性質の調べ方 ①いろいろな角と多角形 ②図形の合同	・対頂角、同位角、錯角などの意味や、平行線や角の性質、平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解する。 ・基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができる。	
12 1	三角形・四角形 ①三角形 ②四角形	・三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ・正方形、ひし形及び長方形が平行四辺形の特別な形であることを見いだし表現することができる。	A(5)
2	確率 ①確率	・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解する。 ・簡単な場合について確率を求めることができる。	
3	データの分布 ①データの分布	・四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解し、これらを用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。	

第2学年 理科

1 目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、小テスト、レポート、実技テストなど
思考・判断・表現	定期試験、小テスト、レポートなど
主体的に学習に取り組む態度	レポート、振り返りシートなど

3 授業について

- (1)授業に必要なものは教科書・学習ノート、ファイルです。忘れ物をしないようにしましょう。
- (2)実験・観察は予想を立てて、自分の考えと比較しながら行いましょう。考察は、実験の結果をふまえ、具体的に書きましょう。
- (3)学習ノートの問題をやるなどして、その日に習ったことはその日のうちに復習しましょう。
- (4)学習ノートは定期試験の時の学習に活用しましょう。プリントはファイルにきちんととじ、普段から整理しておきましょう。

4 年間計画

月	単元	章	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4	化学 変化と 原子・ 分子	1章 物質の成り立ち	身のまわりの物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだすことができる。また、物質は原子や分子からできていることを認識する。	
5		2章 物質の表し方	原子や分子は元素記号で表すことができることを知り、分子を化学式で示すことができる。また、化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化を表すことができる。	
		3章 ささまざまな化学変化	2種類の物質が反応して結びつく実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだすことができる。また、さまざまな化学変化を原子・分子モデルを用いて説明できるようにし、さらに化学反応式で表す。化学変化の学習では、酸化と還元が同時に起きていることを見だし、それらが日常生活にも多く利用されていることに気づく。また、化学変化に伴う熱の出入りについても理解する。	
6		4章 化学変化と物質の質量	化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。その際、実験で得られた結果をグラフ化するなど、実験結果の処理ができる。	
7	生物 の体 のつ くり とは たら き	1章 生物の体をつくるもの	生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞でできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見だし理解する。	
		2章 植物の体のつくりとはたらき	植物の葉や茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果とを関連づけて理解する。	D(19)
9		3章 動物の体のつくりとはたらき	消化や呼吸、血液の循環についての観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけて理解する。また、不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。	
		4章 動物の行動のしくみ	動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて理解する。	
10	電 流 と そ の 利 用	1章 電流の性質	回路の基本的な性質や、電圧と電流の関係についての規則性を見いだすとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。	
11		2章 電流の正体	日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べ、静電気と電流との関係を見だし、真空放電の実験から、電流の正体が電子の流れであることを理解する。	
12		3章 電流と磁界	日常生活と関連づけながら、電流の磁気作用や電流と磁界の相互作用を理解する。また、直流と交流の違いを理解する。	
1	地 球 の 大 気 と 天 気 の 変 化	1章 地球をとり巻く大気のように	地表にあるもののすべてが大気圧がはたらいっていることを理解し、身のまわりの大気の状態を認識する。また、身のまわりの大気の状態を継続的に観測して、気象要素の変化と天気の変化の関係を見いだすことができる。	
2		2章 大気中の水の変化	霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解する。また、地球上の水がさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを理解する。	
		3章 天気の変化と大気の動き	気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。また、日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉える。	
3		4章 大気の動きと日本の四季	大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。さらに、日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。	D(20) D(21)

第2学年 音楽科

1 目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験・実技テスト・授業プリント・ノートなど
思考・判断・表現	定期試験・実技テスト・授業プリント・ノートなど
主体的に取り組む態度	実技テスト・授業プリント・ノートなど

3 授業について

- (1) 授業に必要なものは教科書、器楽教科書、ワーク、リコーダー、ファイル、ノートです。忘れ物をしないようにしましょう。
- (2) 歌唱やリコーダーなどの実技を音楽の時間に一生懸命取り組みましょう。
- (3) 先生の説明を聞くとときや音楽を視聴するときは集中してよく聴きましょう。
- (4) 感想文を書くときは、自分が聞き取ったことや感じたことをしっかり文章表現しましょう。

4 年間計画

期	月	題 材	学習のねらい	関連する 道徳の項目
前期	4	曲想と曲の構成を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	B(8)
	5	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、器楽表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい器楽表現を創意工夫して演奏する。	
	6			
	7	曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう	●曲想と音楽の構造や構成との関わりについて理解するとともに、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	C(16) D(20)
	9	音の重なり方や反復、変化を理解して、創作表現を工夫しよう	●音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、それらを生かしたまとまりのある創作表現を創意工夫して音楽をつくる。	A(5)
	10	曲想やパートの役割を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	
後期	11	オペラに親しみ、その魅力を味わおう	●曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	
	12	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう	●曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	
	1	歌舞伎に親しみ、その魅力を味わおう	●音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	C(17)
	2		●声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	
	3	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう	●歌詞の内容や曲想を味わい、パートの役割と全体の響きとの関わりを理解し、曲にふさわしい表現を仲間と一緒に工夫して表情豊かに合唱する。	

第2学年 美術科

1 目標

- (1). 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。
- (2). 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の動きなどについて独自の・総合的に考え、主題を生み出豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3). 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	作品（制作過程ごとの知識・技能）・小テスト・実技テスト・定期試験
思考・判断・表現	作品（制作過程ごとの発想面）・作品（創造面）・定期試験
主体的に学習に取り組む態度	制作進度・作品完成（仕上げ・工夫）への取組

3 授業について

- (1). 忘れ物に気をつけましょう。他クラスの人のものは借りないようにし、忘れ物をしたら先生に伝えましょう。
- (2). 授業開始時に「めあて」を、終了時に「振り返り」を振り返りシートに記入しましょう。
- (3). 授業中（特に制作時）は集中し、会話を控えましょう。仲間の制作を邪魔してはいけません。
- (4). 制作計画に従って授業の中で作品制作できるようにしましょう。授業内に完成できなかったものは宿題になります。

4 年間指導計画（授業時数 35 時間）

月	時数	内容のまとめ	教材名	学習のねらい
4	1	オリエンテーション	うつくしい！	思考を深めて作り出す作品には楽しさがあることを知る。
5	4	鑑賞	浮世絵版画について調べる ・北斎からゴッホへ	江戸時代の大衆文化を学び、娯楽として発展した「浮世絵版画」についてIT機器を利用しながら調べ学習を行う。
6	6	デザイン (知識・発想・思考)	調べ学習を美術表現で発表 ・文字で伝える ・絵と言葉で伝える	調べた学習内容（浮世絵版画について）を「見てもらう」を意識しタイトルの描き方、POPの利用、画面上の構成、挿絵を考えながら制作する。
7	1	鑑賞	世界の美術と出会う①	美術作品を鑑賞し、作品をとらえて作者のことを知ったり、多くの作品の違いや考え方（多様性）を発見する。
8	8	絵画＜版画＞ (発想・知識・技能)	一版多色木版で表そう	葛飾北斎・東洲斎写楽の作品から、自身の考え（アイデア・発想）を表現に盛り込み制作する。表現する中で日本美術の優れた造形を体感する。絵画にはない版画特有の味わいを楽しみ、工芸的な造形を表現する。1版の中で豊かな色彩を用い表現の幅を広げる。
9				
10				
11				
12	6	デザイン (発想・思考)	絵文字の制作	構成法を応用したデザインを考える。そして制作をするための手順を理解し納得のいく作品を作り上げる。
1	4	デザイン (知識・発想・思考)	わかりやすい情報を伝える (ピクトグラム制作)	何を伝えるか考えて形や色を工夫し、見る人にわかりやすいデザインをする。 作品を鑑賞し、情報をわかりやすく伝えるための工夫を感じ取る。 (1964年の東京オリンピックからの美術デザイン、広島地域からの美術デザイン)
2				
3				
	4	絵画＜漫画＞ (知識・発想・表現)	漫画で表現する	漫画では、顔や体などの表情や動作をデフォルメ（変形）し、単純化や誇張をして迫力や臨場感を表現できるようにする。また漫画家が使用する材料なども使用してみる。
	1	鑑賞	世界の美術と出会う②	美術作品を鑑賞し、作品をとらえて作者のことを知ったり、多くの作品の違いや考え方（多様性）を発見する。

第2学年 保健体育科（男子）

1 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験・各実技テストなど
思考・判断・表現	定期試験・各競技取り組み・授業プリント・ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	各競技取り組み・授業プリント・ノート・小テストなど

3 授業について

- ・体育の授業で必要な物は、体操服とハーフパンツです（体育館では体育館シューズも必要）。遅れずに授業場所に着替えて集合しましょう。
- ・見学をする場合は、保護者の方に所定の届けを記入してもらいましょう。原則、体操服に着替えて見学します。
- ・新しい種目を学ぶときは、実技の本を利用して、競技用語やルールを予習しましょう。
- ・保健の授業で必要な物は、保健の教科書・学習ノート・ファイルです。忘れ物をしないようにしましょう。

4 年間計画

<体育分野>

月	単元	小単元・項目	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 体の動きを高める運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができる。	A(3)
5	体育理論	運動やスポーツの 効果・学び方・安全	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解する。	
	陸上競技	走り幅跳び	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付ける。	
6	器械運動	跳び箱運動	技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができる。	
7	水泳	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付ける。	
9	武道	剣道	技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができる。	C(17)
10	球技	ソフトボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。	C(11)
11	陸上競技	長距離走	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付ける。	
12	球技	卓球		
1	球技	サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。	C(11)
2				
3				

<保健分野>

月	単元	学習のねらい	関連する 道徳の項目
4～3	生活習慣の健康への影響 けがの防止と応急手当	健康な生活と疾病の予防について理解を深める。 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすることができる。	A(2) D(19)

第 2 学 年 保 健 体 育 科（女子）

1 目 標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験・各実技テストなど
思考・判断・表現	定期試験・各競技取り組み・授業プリント・ノートなど
主体的に学習に取り組む態度	各競技取り組み・授業プリント・ノート・小テストなど

3 授業について

- ・体育の授業で必要な物は、体操服とハーフパンツです（体育館では体育館シューズも必要）。遅れずに授業場所に着替えて集合しましょう。
- ・見学をする場合は、保護者の方に所定の届けを記入してもらいましょう。原則、体操服に着替えて見学します。
- ・新しい種目を学ぶときは、実技の本を利用して、競技用語やルールを予習しましょう。
- ・保健の授業で必要な物は、保健の教科書・学習ノート・ファイルです。忘れ物をしないようにしましょう。

4 年間計画

< 体育分野 >

月	単 元	小 単 元 ・ 項 目	学 習 の ね ら い	関 連 する 道 徳 の 項 目
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 体の動きを高める運動	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができる。	A(3)
5	体育理論	運動やスポーツの効果・学び方・安全	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解する。	
6	武道	剣道	技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができる。	C(17)
7	器械運動	跳び箱運動	技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができる。	
9	水泳	クロール 背泳ぎ 平泳ぎ	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付ける。	
10	球技	ソフトボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。	C(11)
11	球技	バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。	C(11)
12	陸上競技	走り幅跳び	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付ける。	
1	陸上競技	長距離走	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付ける。	
2	球技	バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。	C(11)
3				

< 保健分野 >

月	単 元	学 習 の ね ら い	関 連 する 道 徳 の 項 目
4～3	生活習慣の健康への影響 けがの防止と応急手当	健康な生活と疾病の予防について理解を深める。 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすることができる。	A(2) D(19)

第2学年 技術・家庭科（技術分野）

1 目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技術を身につけ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識・技能	定期試験、授業観察、実習
思力・判断・表現等	定期試験、授業観察、実習、レポート
主体的に学習に取り組む態度	定期試験、授業観察、実習、学習ノート、レポート

3 授業について

- 「情報に関する技術」ではコンピュータ(ipadやパソコンなど)を利用し学習します。
- 「生物育成」については、複数の作物から1つを選択し、栽培し、育成条件や環境を学習します。
- 技術の学習は、毎時間授業目標が示されますから、説明をよく聞き、目標に到達できるように真剣に取り組みましょう。
- 準備物は教科書、学習ノート、ファイルの3点です。ファイルはレポート作品や学習プリント類も保存し、卒業まで使用します。大切に扱い、忘れ物のないようにしましょう。
- 課題、宿題はきちんとやりましょう。学習ノートは積極的にまとめていきましょう。

4 年間計画

月	単元	主な学習内容	学習のねらい	関連する道徳の項目
4	技術と生活	○ものをつくる技術について	○ものをつくる技術がどのように進歩してきたかを知る。 ○技術が生活にどのように工夫されてきたかを考えることができる。	C(17)
5	材料を利用するための技術	○材料の特徴と性質	○身近な製品に使われている素材の性質や特徴について関心を持ち、調べることができる。	
6	問題解決の手順	○つくりたいデザインの構想	○材料の加工方法や製作工程について考えることができる。 ○材料の特徴を生かして製作品をつくるための工夫をすることができる。 ○製作品の構想を検討し、設計をまとめることができる。	A(4)
7	製作のための技能	○材料取り	○けがきの目的と方法を知る。 ○けがき用具を使って、正確なけがきができる。	
8				
9		○材料の加工	○加工の目的や条件に応じて、より適切な工具や機器を選択し、扱うことができる。	
10		①切断 ②切削	○製作に使用する工具や機器の種類や仕組み、及び安全な使用方法について調べることができる。	
11				
12				
1		○材料の接合 ○木材との接合(ねじ接合)	○くぎやねじなどの接合の方法を知る。 ○身近な製品に使われているくぎ材料の性質や特徴について関心を持ち、調べることができる。	3(2)
2		○組み立て	○順序をよく考え、ていねいな組み立てと仕上げができる。	1(3)
3	評価	○学習の振り返り	○学習したことについての自己評価や反省点などを踏まえ、学習成果をまとめることができる。	

第2学年 技術・家庭科（家庭分野）

1 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価の方法
知識・技能	実習観察、作業、ノート、プリント、試験など
思考・判断・表現	作業、作品、ノート、プリント、試験など
主体的に学習に取り組む態度	作業、作品、ノート、プリントなど

3 授業について

- (1) 持参物は、教科書、ノート、家庭科ファイルの3点です。忘れ物をしないようにしましょう。
- (2) 調理実習では、エプロン（上半身も覆うもの）、三角巾（大き目のハンカチやバンダナなど）、ハンドタオル1枚が必要です。
- (3) その他、授業内容によって必要な物がある場合は、事前に連絡します。
- (4) 実習では、包丁やガスコンロなど、危険な物を扱います。注意事項をよく守り、集中して作業しましょう。

4 年間計画

月	題 材	小 題 材	学習のねらい	関連する道徳 の項目
4 5 6 7	1 消費生活・環境	(1) 購入・支払いと生活情報 (2) 消費者被害と消費者の自立 (3) 消費者の権利と責任、消費行動が社会・環境に与える影響	・購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解する。 ・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費者の基本的な権利と責任を理解し、環境に配慮した消費生活・自立した消費者としての責任ある消費行動について考え、工夫することができる。	C - (10) C - (12)
9	2 食生活	(1) 中学生の栄養素 (2) 献立作成	・中学生に必要な食品の種類と概量が分かり、一日分の献立作成を考え、工夫することができる。	
10 11 12 1	3 日常食の調理	(1) 調理の計画 (2) 調理実習 ① 肉の調理 ② 魚の調理 ③ 野菜の調理	・用途に応じた食品の選択・材料に適した加熱調理の仕方について理解し、日常食の調理が適切にできる。 ・煮る、焼く、蒸すなどの基本的な調理操作ができる。 ・食品や調理器具の安全と衛生に留意し、適切に取り扱うことができる。環境や資源に配慮した調理を計画し、実習する。	B - (7)
2 3	4 地域の食文化	(1) 地域の食文化 (2) 地域の食材の調理	・地域の食文化を理解する。 ・地域の食材を生かした和食の調理を工夫することができる。	C - (16)

第2学年 英語科

1 目標

- (1)英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりできる力を養う。
- (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 評価について

評価の観点	評価材料
知識及び技能	定期試験、単元テスト、パフォーマンステストなど
思考・判断・表現	定期試験、単元テスト、パフォーマンステストなど
主体的に学習に取り組む態度	単元テスト、パフォーマンステスト、単元の振り返りなど

3 授業について

- (1)授業で必要なものは、教科書、ノート、ワーク、ファイルです。
- (2)英語の音に慣れるため、先生やデジタル教科書の発音をまねて声に出しましょう。発声を楽しむのが上達のコツです。
- (3)英語を使う活動に積極的に参加し、コミュニケーションの力を上げていきましょう。
- (4)わからないことや疑問に思ったことは、その都度質問をするようにしましょう。
- (5)英語の力を上げるには、毎日の家庭学習が欠かせません。特に、復習にコツコツ取り組むことが大切です。

4 年間計画

月	単元	単元名	学習のねらい	関連する 進捗の項目
4	Review Lesson	Ms. King's Trip with Her Friend	1年生で学んだ内容を振り返り、2年生での学びへの準備をすることができる。	
5	Lesson 1	Service Dogs	話の要点を捉え、内容について事実や自分の考えを伝え合ったことをふまえて書くことができる。	B-(6)
	Tips ① for listening	情報の聞き取り方	説明を聞いて、自分に必要な情報を捉えることができる。	
6	Lesson 2	Our Energy Sources	日記やスピーチ原稿の要点を捉え、知り得たことや考えたことなどを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。	D-(20)
	Tips ② for Reading	書き手の意向をとらえる	適切な返信を文章を書くために、電子メールや手紙などから、書き手の意向を把握することができる。	
	Useful Expressions	校舎案内	道案内で、相手の行きたいところを尋ねたり伝えたりすることができる。	
7	Lesson 3	Design in Our Life	話された内容の要点を捉え、聞き取ったり読み取ったりしたことについて、考えたことや感じたことなどを述べ合うことができる。	
	Project 1	あなたの夢を語ろう	自分の将来の夢について、理由や気持ちなどをまとめ、まとまりのあるスピーチをすることができる。	
9	Reading 1	Six Amazing Things about Penguins	簡単な文や語句で書かれている説明文の要点を理解することができる。	
	Lesson 4	Workplace Experience	働くことについて、自分の考えを内容を整理して書くことができる。	C-(13)
	Tips ③ for Writing	マッピング図を描いてまとめた文章を書く	書く内容や構成などを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。	
10	Lesson 5	How to Celebrate Halloween	ハロウィーンなどに関する説明文や対話文を読み、事実や感じたことなどを伝え合うことができる。	C-(18)
	Tips ④ for Speaking	身近なものや人を説明する	事実や人物について、即興で説明することができる。	
11	Lesson 6	Castles and Canyons	自分が薦める街の紹介文を、相手に分かりやすく書くことができる。	C-(16)
	Tips ⑤ for Speaking	メモを上手に使って話す	話す内容や順番を書いたメモをもとに、聞き手に分かりやすいスピーチをすることができる。	
	Useful Expressions	買いもの	買いものをするときに、必要なことを伝えるなど店員とのやり取りができる。	
12	Lesson 7	The Gift of Giving	会話文や説明文の概要を捉え、事実や感じたことをもとに自分の意見を伝え合うことができる。	
	Project 2	行ってみたい名所を紹介しよう	自分の行ってみたいところについて、読み手に分かりやすい順番でまとまりのある文章を書くことができる。	
	Reading 2	Stone Soup	話の概要を捉え、文章の大まかな流れを時間軸に沿ってまとめることができる。	
1	Lesson 8	Rakugo in English	落語の登場人物の心情などを理解しながら概要を捉え、自分の考えを伝え合うことができる。	C-(17)
	Tips ⑥ for Reading	必要な情報を読み取る	ポスターや掲示から、必要な情報を捉えることができる。	
2	Lesson 9	Gestures and Sign Languages	日米の文化の違いについての話の要点を捉え、学んだ内容をふまえて自分の意見を分かりやすく発表することができる。	C-(18)
	Project 3	日本の文化を紹介しよう	日本の文化について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を話すことができる。	C-(17)
3	Reading 3	The Gift of Tezuka Osamu	物語を読み、時間の流れに沿って出来事を理解しながら事実や書き手の伝えたいことを理解することができる。	
	Further Reading	Somebody Loves You, Mr. Hatch	物語を読み、時間の流れに沿って出来事を理解し、登場人物の心情を捉えながら概要や要点を捉えることができる。	